



だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail: noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



施設野菜専攻

CONTENTS

- 1 特集 わたしたちの主張! 令和3年度意見発表会
- 2 専攻紹介 施設野菜専攻
- 3 ようこそ先輩! 先輩からのメッセージ
- 4 専攻トピックス
- 5 学生クラブ紹介
- 6 研修紹介 愛知農業次世代リーダー塾 (農業経営塾)
- 7 トピックス
収穫に感謝! ~収穫感謝祭開催~
岡崎市農林業祭で農大産農畜産物を販売
世界マーマレードアワード2021で銀賞を受賞!
4Hクラブ員と意見交換
一般推薦入学試験を行いました
第2回進路セミナーを開催
家畜に感謝... (畜霊祭)
ひさびさの練習試合で汗を流す!(バスケットボール部)
GAP研修(現地視察)を開催
生産高度化研修(果樹)を開催
- 8 お知らせ
農大祭2021の開催 !!

愛知県立農業大学校
公式HP



SNS

Instagram



Twitter



令和三年度意見発表会

特集



わたしたちの主張！

令和3年度意見発表会



令和3年度意見発表会を、11月18日（木）午後1時から開催しました。昨年度に引き続き今年度も「3密状態回避」のため、1年生を中央教育棟大講義室に、2年生を教室棟第1教室・第2教室に集め、2会場間をリモートで繋ぎました。各専攻から1名ずつ選ばれた1年生8名が、全学生及び職員の前で、農大における実践学習、我が家の農業経営や生活、地域の農村環境、派遣実習を機会に考えたことなどについて意見を発表しました。

いずれの発表者も、発表内容はもちろんのこと、発表時間や発表態度等においても専攻職員から指導を受けて、練習を重ねていました。当日、緊張からその成果を十分に発揮しきれなかった発表者もいましたが、農業に対する思いや後継者として解決したい課題、今後の農業のあるべき姿、将来設計等を



熱意を持って語り、印象深い発表内容となりました。

校長を委員長とした4名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞は「酪農は臭くない」を発表した酪農専攻の小池創太君、優秀賞は「れんげの花にミツバチを」を発表した作物専攻の野田将吾君と「養豚の可能性」を発表した養豚・養鶏専攻の石原清花さんがそれぞれ獲得し、校長から賞状ならびに副賞（後援会支援）を授与されました。

最優秀賞の小池君は、岐阜県主催の「東海・近畿ブロック農業大学校意見発表会」に本校代表として参加しますが、さらにその先の全国大会（2月1日開催予定）への出場も目指します。

酪農は臭い

中学校の頃、将来、父の酪農を継ごうと決め、手伝いで牛舎に入ることが多くなったが、友達から「酪農は臭い」と言われた。畜産業にとって臭気は大きな課題になっており、頭を抱えている農家も多い。畜産業は労働環境は改善されつつあるが、臭くない酪農を行うのは難しいことだと考えていた。

派遣実習で学んだこと

6次産業を学ぶため、派遣実習で茨城県の石岡鈴木牧場に行った。ここでは、「おいしいヨーグルト&チーズ作りは土から」を理念として、堆肥作りから取り組んでいた。良い堆肥を使用し育てた飼料はとても甘くて、これを牛に与えることで良い牛乳が出て、糞の匂いも抑えることができること知った。6次産業を行うことで、酪農の臭いというイメージを変えることが出来るのではないかと考えた。

今後やりたいこと

将来を見据え、まずは農業大学校の堆肥を変え、質のよい飼料を作りたい。そして牛へ給与しておいしい牛乳を生産するとともに、乳製品を作ることに挑戦していきたい。酪農家キーニの牛飼育哲学にもあるように、自分たちの行動で牛は変わる。その責任を強く持ち、自分たちで牛を変え、酪農の悪いイメージを変えていきたい。



最優秀賞

「酪農は臭くない」



酪農専攻1年
小池 創太

農家になる決意!! 「れんげ農法を復活させたい」

体にも環境にも優しい農法といわれるれんげ農法。私が幼いころから当たり前のように接してきた田園のれんげ畑が宅地化などで少なくなってきた。

地域農業を復活させるため農家になって農業をやりたいという想いから安城農林高校に進学した。高校の時、養蜂家と話す機会に恵まれ、れんげ農法と養蜂のコラボに取り組んだ。田んぼに置いた鉢箱からとれた甘い蜂蜜、私はれんげ農法と養蜂のコラボがぴったり共栄できると確信した。

農業大学校での学び

れんげ農法を行うために、稲作についてより専門的に学べる本校に進学した。農大ではたくさんのことを学べ、未体験のことが多く、よく考えて動くことの大切さを実感した。二年生になったられんげ農法を研究するつもりである。



水田の多面的機能を守る+チャレンジ精神

私が農業を行う中で大事にしていきたいことは、水田の多面的機能を守る経営を心掛けることである。そのために環境負荷を小さくできるという利点をもつ「れんげ農法」を生かした農業経営にチャレンジしていきたい。

優秀賞

「れんげの花にミツバチを」

～ れんげ農法とミツバチのコラボで始める環境保全型農業 ～



作物専攻1年
野田 将吾

命と向き合う

人口増加による食糧不足が心配される中、食品ロスが問題となっている。私は養豚に食品ロスの問題を解決に導く可能性があると考えている。このように考えるきっかけは、本校での養豚を通して命と向き合うことを学んだからだ。豚の管理で私が最も緊張する分娩は、死産や圧死など常に神経をとがらせている。初めての分娩で愛情をもって育ててきた子豚が出荷された日の夕飯にでた豚肉は気が進まなかったが、一口食べたときこれまで感じたことがないほどおいしかった。命を戴くことを実感し食べ物を残さないと誓った。食の大切さにきづき食品ロスを減らせると感じた。

農家の努力

過去に豚の伝染病により全頭殺処分を経験した派遣実習先の養豚農家は、食料として命を戴く大切さを伝えるため地域と交流し、養豚への理解を深めてもらう努力をしていた。養豚農家の消費者に向けた活動が、多くの人に食の大切さを知ってもらう一番のきっかけになると思う。



エコフィードの利用

食品ロスを減らすには養豚を中心に広がりつつあるエコフィードの利用がある。エコフィードの存在は養豚の持続のために絶対必要なものだ。私は大学に編入をめざし、環境や経済、教育など別の視点から養豚の新たな可能性を見つけていきたいと思う。

優秀賞

「養豚の可能性」



養豚・養鶏専攻1年
石原 清花

「派遣実習で感じた農業の可能性」

農業と接点のない中で農大に入学し今まで知らなかった世界に踏み入れて様々な刺激を受けた。派遣実習で革新的な技術を取り入れた農業を間近で見られると期待していたが、多くが手作業をしている光景にひどくがっかりし、この実情をもっと若者に知ってもらいたいと思った。農業は人間にとってもとても重要な活動であり、義務教育の中で積極的に取り扱うべきだ。農業には先進的な技術の入り込む余地がまだまだたくさんあり、その可能性を広げていくのはこれからの若者である。農業があらゆる技術や分野とつながり、発展していくことを期待しつつ、これからも農業と楽しく関わりたい。



切花専攻1年
三輪 沙妃

「身近なもので効率アップ」

自分は、今まで工夫することをあまりしてこなかった。また、工夫するのが苦手な人もいる。しかし、そこで苦手なことをどうしたら克服できるのか、考えるのも工夫の一つである。

派遣実習先の花農家で作業に使う道具をいろいろ工夫していた。農業に必要なのは工夫すること。消費者ニーズに応えるためにも工夫し、良い物を作るときにも工夫が必要ということである。農家から教えてもらった「工夫する」という言葉を大切に、工夫する人生を歩んでいこうと思う。



鉢物・緑花木専攻1年
榊山 匠哉

「露地野菜の未来」

勉強が嫌いで外に出て作業がしたいと思い農業高校に進学。農業の実習は体を動かせる作業があり、やりがいを感じた私は実習助手になることを決めた。そして、より技術を磨きたいと思い農大の露地野菜専攻に進学した。作業の達成感とやりがいを強く感じ、さらに農業の魅力を見つけることができた。派遣実習では厳しい日本の農業について深く思うようになり、農業は地域全体で支えることが必要だと思った。露地野菜は沢山の野菜を栽培し旬を感じられて魅力がある。これから実習助手をめざし農業の魅力や露地野菜の未来を伝えていきたい。



露地野菜専攻1年
伊藤 空也

「将来への分岐点」

中学生の時は将来像は特になかった。高校生の時はイラストレーターなどを進路として考えたが踏ん切りがつかず断念した。高校1年の冬、亡くなった親戚の家庭菜園の撤去を手伝った時、植物や土に触れることに夢中になっていた自分を思い出した。農業に携わる仕事に就きたいと父に相談し知り合いの農業法人で職業体験。農業の楽しさを深く知ると共に知識、技術、筋力など足りないことを痛感し農大への進学を決めた。初めて進路への明確なイメージが定まり分岐点となった。これからも今まで見えていなかった楽しい面、辛い面が見えてくると思うが、諦めずに、初めて持った「農家になりたい」という夢に進んでいきたい。



施設野菜専攻1年
照井 輝

「坂 道」

農家派遣実習の時、山の畑で作業が終わった後、自転車で山を駆け降りた時の爽快感....。

農業はしんどいなと思うけれど、自然の中で作業するのは楽しいし、農業は好きだ。高校2年生の時に農業の本を読み、楽しそうに自由に農業をやっている人の姿を知り、農業に関心を持った。食べ物はとても身近な存在で無かったら生きていけないのに、それを生み出す農業はあまり人気がない。なんでだ！ もっと農業に興味を持つ人が増えてほしいし、農業を知れる機会が増えるといいなと思う。



果樹専攻1年
服部 碧記

審査講評

校長 堤 公生

各専攻を代表した8名の意見を聴く、大変有意義な発表会となりました。

最優秀賞の小池さん（酪農専攻）は、畜産業が抱える臭気に関する課題を解決するアイデアを派遣実習先で学び、今後農大で取り組みたいことを熱く具体的に発表したことが評価されました。

優秀賞の野田さん（作物専攻）は、れんげ農法に対する自分の思いと地域との共生を実現するため、今何をすべきか整理して、実現に向けて頑張る決意を明確に述べてくれました。

優秀賞第2選の石原さん（養豚・養鶏専攻）は、専攻実習での体験を通じて「命の大切さ」を学び、派遣実習先でさらに養豚経営者の取り組みに触れて、自身の考えを確立していった過程がよく伝わってきました。

惜しくも、賞に入らなかった発表も、それぞれ自身の経験を通じて感じたこと、農業の置かれた状況や環境を踏まえた、個性豊かだ前向きな意見でした。

今後、学生諸君が自分の意見、考えを持って学校生活をより豊かにしてほしいと思います。

専攻紹介

施設野菜専攻

施設野菜専攻は、トマト、ミニトマトを中心にナス、キュウリ、温室メロンなどの品目を栽培しています。施設園芸の未来を担う学生28人（2年生16人、1年生12人）がメンバーです。

ハウス棟数は、栽培ハウス10棟、育苗ハウス1棟の合計11棟で、面積は約50aです。栽培は冬春作が中心で、それぞれのハウスを担当する1、2年生が夏場の苗作りから定植、栽培管理、収穫、出荷まで責任を持って行います。

2020年には統合環境制御装置を導入したICT温室が新たに建てられました。既存ハウスにも炭酸ガス発生機やミスト装置などの導入が進むなど、現場で普及が進む環境制御技術の導入も進んでいます。



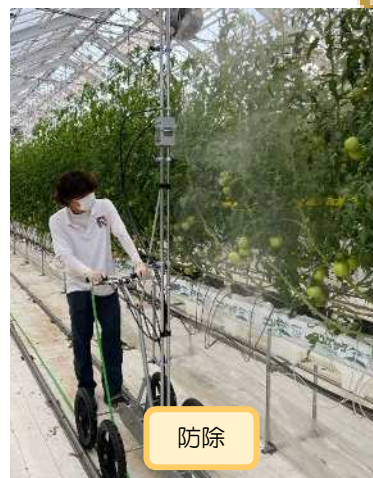
実習の風景



生育調査



収穫



防除



誘引



定植



直売

トマトICT温室



誘引作業は
高所作業車に乗って
行います。



作業車を使用した誘引作業

ICT温室では、PCにより
環境制御を行っています。統
合環境制御を導入し、高収量
を狙っています。



PCによる統合環境制御



施設品目の紹介

キュウリ



ココバッグでの長期栽培で
の栽培を開始。長期でとれる
よう誘引作業は特に大切です。

ナスの整枝、切り戻しは
毎日コツコツが大切

メロン



手塩にかけて育て
たアールスメロン
は格別です。

メロンの交配



ナス



ようこそ先輩！

11月5日（金）、農大の学生が実践的な農業経営を学ぶため、各作目の第一線で活躍している先輩農業者9名を講師に招いて「農業の魅力や農業経営について」をテーマに、専攻別懇談会「ようこそ！先輩」を開催しました。

各専攻の卒業生となる先輩農業者からは、農業の魅力ややりがい、効率的で安定的な農業経営など貴重なお話をいただきました。

多くの学生が改めて農業の魅力を実感し、将来の就農に向けて大変有意義な懇談会となりました。



露地野菜専攻

切花専攻

先輩からのメッセージ

佐藤 和樹さん(22歳)

令和元年度卒業（切花専攻）
豊橋市野依町 施設ギク
（輪ギク専作）約50a



Q 現在、どんな経営・仕事をされていますか

約1,500坪の施設で輪ギクを両親、祖父と経営しています。

栽培品種は「精の一世」と「神馬」の2品種で、2.5~3作/年の作付けをし、施設を効率的に使用することを心がけています。就農した時期はコロナ禍が始まったころで、周りの方からは「大変な時期に就農したね」と言われましたが、これ以上悪くなることはないかとらえています。最近はキク単価の下落により、他品目への転換が話題になるなど、毎日が勉強の日々ですが、朝早くから夜遅くまで充実した日々を送っています。地元の4Hクラブに入会して、様々な活動をしており、

人脈も広がり、良い刺激を受けています。

Q 農大の思い出を教えてください

農大での1番の思い出は、東海近畿地区農業大学校スポーツ大会です。

この大会には2年続けて野球で参加しました。野球部は毎年のように優勝しており、プレッシャーもありましたが、2年生の時には試合にも出場し、優勝に貢献できたかなと思います。仲間と一緒に戦ったことが一番の思い出です。

プロジェクトは、キクをテーマに「挿し穂長の違いがキクの品質に及ぼす影響」に取り組みました。現在、キクの定植は全て直挿しで行っており、プロジェクトの結果を参考にしながら行っています。

Q 後輩へメッセージをお願いします

農大で出会った仲間とは今でも連絡を取り合っています。2年間は、あっという間に過ぎますが、時間を大切にし、多くの友人を作ってほしいと思います。

先輩からのメッセージ

服部 高経さん(32歳)

平成20年度卒業（施設野菜専攻）
三重県木曾岬町 施設野菜
（トマト専作）約70a



Q 現在、どんな経営・仕事をされていますか

母親とパート2名で大玉トマトを専作で経営しています。70aは部会では平均的な経営面積だと思います。

身の丈に合った経営を心掛けています。例えば、休日がちゃんと取れて、あまりたくさんの収量は望まず、家族が食べていけるだけの収入を得られれば良いと思っています。海に近い干拓地なので塩害にならないよう従来からの方法で栽培しています。

Q 農大の思い出を教えてください

農大での思い出はたくさんありますが、ヤンマーの懸賞作文で銀賞を獲ったこととプロジェクトは記憶に残っています。

懸賞作文の表彰式に東京までスーツを着て行ったことと、副賞にいただいた15万円を専攻の友人との飲食で使ってしまいました。

プロジェクトは、家でやっているトマトではなくあえてマイナーなパプリカの仕立て方をテーマに取り組みました。国内での産地や文献が少なく手探りだったところに学ぶ楽しさがありました。

自分は卒業後すぐに家の経営に入ったので、経営演習の授業で濃密な経営指導をもらったことはとても役立っています。

Q 後輩へメッセージをお願いします

農大での友達とは今でも情報交換しています。最近も補助金の情報を友人から得て、地元の人に教えて感謝されました。一生の友人を得るのが農大時代だと思います。



果樹専攻



施設野菜専攻



切花専攻



酪農専攻

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

各専攻の様子は、農大のInstagram、ツイッターで情報発信しています。



ミニトマト、ナスの 先進農家を視察

校外学習でJA豊橋のミニトマト部会員、ナス部会員のほ場を視察しました。

ミニトマトほ場は、高軒高のハウスで環境制御により光合成を追求し、なんと一作で40段もの果房を収穫していました。光合成を最適化し食味も良好だそうです。

施設ナスでは最高32tと非常に単収の高い栽培ほ場に伺いました。単収向上を目指した経緯や、ナスの収量を増やすための栽培のポイントなどを学びました。

研修で学んだことを実習や将来に生かしていきます。



サツマイモの熟成すすみ 一段とおいしく！

10月下旬から11月上旬にかけてサツマイモを収穫しました。約4aに植えられたサツマイモを芋堀機を使って掘り取りました。中には1kgを超えるような大きな芋もあり今年度は豊作でした。収穫した芋はビニルハウス内でキュアリングし2週間以上熟成した後、販売しているため甘みが強くおいしいサツマイモになっています。11月5日の収穫感謝祭の昼食では露地野菜専攻のサツマイモが使われ、絹のような舌触りで甘いサツマイモは好評でした。



食味試験で 農大のお米を堪能!!

作物専攻では、卒業論文に活用するため品種比較を行う食味試験を実施しました。5〜6品種のお米を味・香り・外観・粘り等から評価していきます。普段はあまり考えることがないお米の違いを熱心に評価していきます。

お米の好みは性別や年齢によって異なるため、職員や学生を対象に行うことで、様々な年代のデータを取ることができそうです！意外と評価が分かるため面白い結果となりました。今後、卒論のデータとして活用していきます。



モンガク谷ワイナリー (北海道)を訪問

果樹専攻では、10月19日に、県外学習として北海道へ視察研修に行きました！

視察先のモンガク谷ワイナリーでは、ワインぶどうほ場と醸造施設を見学させて頂きました。園主さんから、新規就農から現在に至るまでの経緯と、人との繋がりや「農業と人の循環」の大切さについてお話を聞くことができ、学生にとって有意義な研修になりました。垣根仕立てのほ場がとても綺麗で印象的でした♪





花のまち豊橋から学ぶ

花き類の一大産地である東三河地区の切花生産や園芸店を、2年生が校外学習に行きました。

バラ農家では定植方法や仕立て方など農大との違いについて、農家さんと意見交換しました。デルフィニウム農家は、全国一のデルフィニウム産地である豊橋市の高品質生産への工夫について、多くの学生が熱心に質問していました。

園芸専門店では、実習販売向けの新商品のアイデアを得た学生もいました。現在、アイデアを形にするべく、試行錯誤を繰り返しています。上手くいったら農大祭でお披露目の予定です。乞う御期待。



ハンギングバスケットに

挑戦！

農産加工演習の授業で、バンジーやピオラ等のハンギングバスケットを作成しました。ハンギングバスケットは、壁に掛けられるお花の寄せ植えのことです。今回は鉢の側面にも花を植えることができ専用のスリットが入った鉢を使用しました。壁に掛けた時にボール状にバランスよく配置することに苦労しましたが、素敵な作品がたくさんできました。



ハム・ソーセージ・

アイスクリームを
作りました

養豚、養鶏専攻とともに加工演習を行い、ハム、ソーセージ、アイスクリームを作りました。ソーセージの皮が破れやすいなど、初めて行う作業に苦労している様子でしたが、講師の指導の下楽しく演習を行いました。最後には美味しくいただきました。中でもアイスクリームが濃厚で好評でした。



検疫探知犬に感動！

11月10日、酪農専攻と養豚養鶏専攻の2年生が名古屋中央卸売市場南部市場と動物検疫所中部空港支所に校外学習に行きました。南部市場では牛と豚の解体作業を見学、動物検疫所では検疫探知犬のデモンストレーションを見学しました。いくつかのスーツケースの一つに肉製品が入っているのを探知犬が探し当てたのには、学生たちは感動していました。



実習でデビークの 作業を行いました

10月下旬に赤・白玉鶏及び卵用名古屋コーチンが約1200羽入すうしました。そのひなについて、1週間後の11月上旬にデビークを行いました。デビークはつきによる鶏の損耗を防止するためにくちばしの先端を焼き切るものです。羽数も多くなりたいへんでしたが、春には慣れない様子でしたが、今回は以前よりはすこし慣れてスムーズにできるようになりました。



学生紹介

学生クラブ紹介

野球部



部員数 20名
(男子17名 女子3名)
活動日時 随時 17:00~
活動場所 グラウンド



私たち野球部は、雰囲気はアットホームで、自由に楽しくがモットーです。初心者の方が多く、うまい下手関係なく楽しんでいます。コロナ禍でなかなか試合ができませんが、来年度は東海・近畿スポーツ大会が愛知県で開催される予定です。野球部は連覇がかかっており、後輩たちには頑張ってもらいたいです。
(部長 藤田 亮)

写真部



部員数 3名
(男子2名 女子1名)
活動日時 水曜日 16:30~
活動場所 教室棟第2教室



今年は昨年から引き続きコロナ禍という状況の中で活動が制限され、当初予定していた計画を行うことができませんでした。

写真部は農大祭に向け個々の写真技術を高めるため、各部員がネット等を活用して撮影の基礎基本を学んでいます。現在、部員数は3名と少なく、次年度における写真部の存続の危機を脱するためには部員の確保が必要と考えています。ぜひ、写真に興味がある方、好きな方の加入を心待ちにしています。
(部長 澤田 実季)

研修紹介

愛知農業次世代リーダー塾（農業経営塾）

農業経営者の中には、「売り上げを伸ばしたい。」「直売のお客さんを増やしたい。」「従業員が定着する、やりがいのある職場にしたい。」などの悩みをお持ちの方も多と思います。

農業大学校では、農業者が営農しながら高度な経営ノウハウを学ぶ場として、「愛知農業次世代リーダー塾」を開講しています。



本年度は、受講生 13 名で 8 月 30 日(月)から開講しました。来年 2 月 9 日(水)まで計 12 回の講座を予定しています。

第 1 回から第 8 回までは専門家からの講義により農業経営に必要な知識を習得します。受講生は真剣に各講師の話を聴くとともに、その後のグループ討議により議論を深めています。都合が悪く欠席した場合は、受講者限定の YouTube により自主学習しています。

第 9 回以降は、中小企業診断士から直接指導を受け、自身の経営の置かれている状況を分析するとともに、将来の経営ビジョンを明確にし、5 年後を目標とした経営改善計画を作成します。必要に応じ、講座時間外の指導も受けられます。



経営改善計画発表会をもって講座は終了しますが、さらに専門家による指導を受けたい場合は、県及び J A 愛知中央会が実施している「あいち農業経営相談所」による指導が受けられます。

受講生の声

豊川市 小澤岩次氏

ミニトマト栽培を主体に 45a の施設栽培をしています。家族経営でしたが、5 年前よりパート雇用を導入しました。美味しいもの、良いものをいかに多く収穫することに主軸を置いていたため、経営が悪くても原因がわかりませんでした。栽培と経営は別物である事を実感しました。



愛知農業次世代リーダー塾を受講し、財務管理・労務管理・経営管理・経営戦略など、一から経営について学ぶ事ができています。

何を作っても働けば儲かる農業は終わり、これからは、経営学や経営データで計画的農業に取り組む必要があります。大切なものを守るためにも農業で経営を成り立たせるべく、この塾で学び、熱い信念を持ち、仲間と討論を繰り返しています。

講師の声

中小企業診断士 深谷定弘氏
(担任、経営計画作成指導)

農業経営者に限らず、中小企業の経営者の多くでみられることですが、仕事に熱心に取り組んではいらぬものの、日々の仕事に追われてしまいがちです。

愛知農業次世代リーダー塾は、これからの農業経営に必要な情報やノウハウを体系的に学び、現在と将来の自分の経営を見つめ直していただき、農業経営の発展という同じ志を持つ仲間と議論、切磋琢磨する場です。

昨年度の 22 人の受講者の方々には、全員、5 年後のご自分の経営を見据えた実践的な経営計画書を作っていただきました。今年も「経営を良くしたい」という強い思いを持つ 13 人の方々に熱心に受講していただき、私も楽しく関わらせていただいています。



トピックス

収穫に感謝！ ～ 収穫感謝祭開催 ～

11月5日（金）午前中、本校を卒業した先輩9名を本校に招き「ようこそ先輩」を開催した後、先輩らと一緒に昼食をいただきました。昼食は、本校で収穫された野菜と果実を食材に加えた特別メニューを食堂で用意していただき、みんなで農産物に感謝しながら食事を楽しみました。

午後からは学年別に、学生会役員の進行により「ビンゴ大会」を開催し大盛り上がりでした。



肉と魚のメニュー



2年生は体育館でビンゴ大会



ビンゴ賞品をもらって一言



みんな、完食

岡崎市農林業祭で農大産農畜産物を販売

11月6日（土）・7日（日）「第48回岡崎市農林業祭」が開催され、岡崎市との連携協定を結んだ最初のイベントとして本校が出展しました。各専攻で生産した農畜産物の販売や農大の紹介パネル展示など行いました。出展ブースには連日多くのお客さんが訪れ、学生からの商品に関する説明をととても熱心に聞いていただきました。参加した学生も地域住民の皆様と直接交流できる場となり日頃の実習販売とは違う雰囲気を楽しむことができました。



熱心に説明する学生たち

世界マーマレードアワード2021で銀賞を受賞！

果樹専攻の学生たちが作ったマーマレードが世界マーマレードアワード日本大会（5月16日愛媛県、主催：ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会実行委員会）において初出場の上、「銀賞（アマチュアの部）」を受賞しました！。

果樹専攻は毎年授業の一環として生産した果物を複数のジャムとマーマレードに加工しています。この賞の入賞をめざして、学生たちは、静岡県や北海道でこの賞を受賞している果樹農家などで加工方法などを学びに行きました。受賞したマーマレードは、「味」のほか、透明感のある色あいが高く評価されました。学生たちもこれを励みにがんばっています。農大祭では銀賞のチームが作ったジャム&マーマレードを販売します。是非ご賞味ください！



自慢のジャムとマーマレードです！



銀賞(アマチュアの部)
ロゴマーク

4Hクラブ員と意見交換

11月12日（金）、愛知県の4Hクラブ員のプロジェクト発表が農大で行われ、2年生が聴衆しました。農大生が取り組むプロジェクトに比べて、より経営上の課題解決の内容に興味を持った学生が多く、意見交換会では、農大生からの積極的な質問に対し、4Hクラブ員が真摯に答えてくれました。質問者だけでなく、聴衆した学生、4Hクラブ員にとって有意義な時間となりました。就農に対する漠然とした気持ちであった学生には、活躍されている4Hクラブ員が新たな目標になったのではないのでしょうか。



学生からの質問を受ける4Hクラブ員

一般推薦入学試験を行いました

11月1日(月)に行われた令和4年度入学生一般推薦入学試験では、41名の応募がありました。11月12日(金)に合格発表を行い、9月30日(木)に実施した農業系高等学校後継者等特別推薦入学試験合格者を合わせて45名が推薦入学試験に合格しました。

専攻別では、露地野菜や作物の専攻に多くの希望が集中しました。

今後、農業大学校の令和4年度入学生一般入学試験が、12月10日(金)に行われます。一般入学試験は県外からの受験が可能となり、倍率も上がることが予想されます。農業に熱い思いを持った受験生の応募を期待します。

第2回進路セミナーを開催

11月9日(火)1年生を対象に第2回進路セミナーを開催しました。愛知労働局の戸崎さんから「労働基準関係法令の基礎知識」として、就職先を選ぶ際に必要な、労働時間、休日、有給休暇など労働者に適用されるルールについて講義を受けました。また、ハローワーク刈谷の竹下さんからは志望動機の表現方法や自己分析の重要性等について講義を受けました。法令などはやや難しい内容もありましたが、学生は就職活動に向けて意識を高めていく時期にきています。



労働条件に関する法令を学ぶ

家畜に感謝... (畜霊祭)

11月25日(木)畜産の実習を行う中、出荷したり、その途中で亡くなった家畜の魂を慰霊し感謝するため、畜霊祭を開催しました。

畜産は、命の一部あるいは全部をいただく業種です。

畜産エリア内にある鎮魂碑の前で、校長始め酪農専攻、養豚・養鶏専攻の学生全員と職員が厳かにお参りしました。



鎮魂碑の前で全員でお参り

ひさびさの練習試合で汗を流す！（バスケットボール部）

11月3日(水)本校の体育館で、農業大学校バスケットボール部と安城農林高校のバスケットボール部が練習試合を行いました。

コロナ禍の影響で、ここ数年、練習試合をはじめとしたスポーツ行事が中止となっていました。ここ数か月の感染状況が良くなっていることから、今回の開催に至りました。試合では、本校チームは悔しくも負けてしまいましたが、50点以上取るなど、選手一丸となって真剣に取り組んでいました。試合の後、両校の選手から、今後もこのような機会を設けたい、と前向きな意見が上がりました。



白熱する試合

GAP研修(現地視察)を開催

11月16日(火) 農業者等16名が参加してGAP認証を取得している碧南市の露地野菜生産者「神重農産」で「GAPの認証取得と実践」について現地視察研修会を開催しました。

受講者はGAP認証の取得を考えている方が主で、取得にあたり疑問に思っていたことを「神重農産」の林口夫妻に質問する形で進めました。林口夫妻は質問に対し丁寧に答えていただき、「実際に認証取得されている方の話は、非常に参考になった」など参加者からの感想がありました。



林口夫妻との意見交換

生産高度化研修(果樹)を開催

11月19日(金) 生産高度化研修(果樹:モモ)が本校で57名の生産者等が参加し開催されました。今回は、徳島県立農林水産総合技術センターの中西総括研究員の「クビアカツヤカミキリによる被害と対策について」の講義はリモート形式で行い、講義室に「クビアカツヤカミキリ」の標本を展示して現物を確認しながらの研修会となりました。また、愛知県農業総合試験場の中村技師から「モモ新品種『さくひめ』の品種特性と栽培技術について」の講義がありました。



モモ新品種「さくひめ」の講義

お知らせ

農大祭2021の開催！！

愛知県立農業大学校は、農畜産物販売などを通して地域の方との交流を図り、農業大学校を身近に感じ、愛知県の農業の魅力を発信することを目的に農大祭2021を開催します。

■ 開催日時

12月4日（土）午前9時から正午まで（受付開始 午前8時15分）

■ テーマ

ド派手にいこうぜ！！農大祭 ～すべての命に感謝を込めて～

■ 主な内容

- ① 農畜産物の直売
各専攻で育てた鉢植、切花、米、果樹、野菜、卵などの直売。
- ② 農業大学校のPR
各専攻のパネル展示、農大キャンパスツアーを行い、農大を知るとともに魅力を発信。
- ③ 各種団体・企業ブース
農業大学校に関係する団体、企業がブースを出展し、展示や即売。
※駐車場は例年混雑するため、公共交通機関を御利用ください。
公共交通機関の御案内：名鉄美合駅下車 南へ徒歩10分

【今年のチラシ】



写真：昨年度の農大祭

会場風景と鉢物・緑花木専攻の販売

